




神奈川の研究者紹介<Intellectual Resources of Kanagawa>

氏名	石井 美樹子 (いしい みきこ)	
現職	神奈川大学外国語学部国際交流学科・神奈川大学大学院教授 外国語学研究科欧米言語文化専攻 文学博士 (成城大学)	
主な経歴	英国ケンブリッジ大学東洋学部専任講師、静岡大学教授を経て、 1987年より現職	
専攻分野・ 研究テーマ	英国中世・ルネサンス演劇・歴史	
主要業績 (これまで発表 した著書、論文、 行政委員の 経験等)	<p><b>【著書】</b></p> <p>『図説・エリザベス一世』河出書房新社、2012          『エリザベス一世—華麗なる孤独』中央公論新社、2009          『ヨーロッパの王妃』河出書房新社、2006          『聖母のルネサンス』岩波書店、2005          『妖精の時代』筑摩書房、2003          『ルネサンスの女王エリザベス—肖像画と権力』朝日新聞社、2002          『イギリス王妃たちの物語』朝日新聞社、1997          『イギリス・ルネサンスの女たち』中央公論社、1997 ほか多数</p> <p><b>【委員・役員歴】</b></p> <p>国際学会誌 Comparative Drama 編集委員          英国ケンブリッジ大学クレア・ホール・コレッジ終身特別研究員</p>	
神奈川県との 関わり	特にありません。	
メッセージ	<p><b>【現在の研究プロジェクト】</b></p> <p>シェイクスピア劇の翻訳。これまでのイギリス中世・ルネサンス史の研究を踏まえ、 16、17世紀イギリスの社会と歴史をバックグラウンドにしたシェイクスピア劇の邦訳に取り 組んでいます。</p> <p>また、フランス革命期に生きた女性たち、特に、マリー・アントワネット王妃の生涯 を服飾を視点に歴史を読み直し、評伝に取り組んでいます。</p> <p><b>【神奈川県との連携に期待すること】</b></p> <p>神奈川県の横浜市はかつて世界へ飛翔するための港であった。その歴史を活かした人づ くり、国際人の育成を、大学の枠をこえて、実現できる仕組みが形成されるのを期待し ています。</p>	
連絡先	〒221-8686 神奈川県横浜市六角橋 3-27-1 神奈川大学 外国語学部 電話：045-481-5661 (代表) E-mail：ishiimikiko@hotmail.co.jp	


神奈川の研究者紹介 < Intellectual Resources of Kanagawa >

氏名	上村 大輔 (うえむら だいすけ)	
現職	神奈川大学理学部教授 (理学博士)	
主な経歴	名古屋大学大学院理学研究科教授 (1997.10-2008)、名古屋大学名誉教授 (2008-)、慶應義塾大学理工学部教授 (2008-2011)	
専攻分野・研究テーマ	天然物有機化学、生物分子科学、ケミカルバイオロジー	
主要業績 (これまで発表 した著書、論文、 行政委員の 経験等)	<p>【著書】 生命科学への展開 (共著) 岩波講座 現代化学への入門 第15巻 (2006) ; 入門ケミカルバイオロジー (共著) p. 67-81 (2008)</p> <p>【論文】 ●Exploratory research on bioactive natural products with a focus on biological phenomena, <i>Proc. Jpn. Acad., Ser. B.</i> 86, 190, 2010 ●Duck-billed Platypus Venom Peptides Induce Ca<sup>2+</sup> Influx in Neuroblastoma Cells, <i>J. Am. Chem. Soc.</i>, 131, 18038, 2009 (共著) ●Recent aspects of chemical ecology: Natural toxins, coral communities, and symbiotic relationships, <i>Pure Appl. Chem.</i> 81, 1093, 2009 (共著)</p> <p>【委員・役員歴】 文部科学省科学技術・学術審議会専門委員 (2001) 国際純正・応用化学連合 第25回天然物化学国際会議組織委員長 (2006) 日本化学会理事 (2005) 同副会長 (2009) 同筆頭副会長 (2010)</p>	
神奈川県との 関わり	新川崎先端研究連携スクエアにおいて、研究プロジェクト (健康食品素材の探索・開発) を展開 (2008-2011)	
メッセージ	<p>【現在、関心をもっている領域】 最近オリジナリティーとイノベーションとが語られる。オリジナリティーは創意と、独創性が両輪となって成り立つ。文徳として社会にこれらを啓蒙し、学習によって生活の知恵を磨くことこそが文化の原点であり、オリジナリティー自身である。文化によって培われた理論、普遍は原型であり、物質、個別多様は原物と言う。一方、イノベーションとは社会の状勢を考慮して、原物、原型を利活用する方向性である。何れもオリジナリティー無くしては語れないのであって、特に研究者にとっては不可欠の要素であると考えます。</p> <p>【神奈川県との連携に期待すること】 神奈川大学では5年計画で文部科学省支援事業としての研究プロジェクト「太陽光活用を基盤とするグリーン/ライフイノベーション創出技術研究拠点の形成」が始まる。オリジナリティーの高い研究を遂行し、地域を巻き込む新しいイノベーションに繋がることを目指さなければならない。</p>	
連絡先	<p>〒259-1293 平塚市土屋2946 電話 : 0463-59-4111 (代表) ext. 2719 E-mail : uemurad@kanagawa-u.ac.jp</p>	


## 神奈川の研究者紹介<Intellectual Resources of Kanagawa>

氏名	板子 一隆 (いたこ かずたか)	
現職	神奈川工科大学工学部教授 (博士 (工学))	
主な経歴	日本大学大学院修了後、神奈川工科大学電気電子工学科助手、講師、准教授を経て現職 ブラウンシュヴァイク工科大学客員研究員(ドイツ)	
専攻分野・研究テーマ	パワーエレクトロニクス制御、電力工学、電気機器、音響	
主要業績 (これまで 発表した著 書、論文、 行政委員の 経験等)	<p>【論文】</p> <p>① 板子一隆、森 武昭 “太陽光発電システムの太陽電池混成使用時における昇降圧 DC-DC コンバータの MPPT 制御法” 電気設備学会誌, (vol. 32, No. 7), pp. 531~535, (2012)</p> <p>② 板子一隆、森 武昭 “燃料電池発電システムのための高効率制御方式” 電気設備学会誌, (vol. 32, No. 6), pp. 436~440, (2012)</p> <p>③ 板子一隆、森 武昭 “太陽光発電システムにおける IV 特性スキャン型 MPPT 制御の部分影時の効果” 電気設備学会誌, (vol. 32, No. 4), pp. 301~306, (2012)</p> <p>④ K. Itako and T. Mori” Single-Phase Full Bridge PWM Rectifier with Load Current Feedforward” Journal of Energy and Power Engineering (USA), Vol. 6, No. 2, pp. 283~286, (2012)</p> <p>【委員・役員歴】 電気学会東京支部、神奈川支所委員</p>	
神奈川県との関わり	神奈川県産業技術センター客員研究員、神奈川県産業技術センター運営協議会課題研究評価部会委員	
メッセージ	<p>【現在、関心をもっている領域】</p> <p>最近のエネルギー事情から新エネルギーの利用技術に着目しており、特に太陽光発電システムの出力最大化のための制御方式(MPPT 制御)の検討や燃料電池システムの高効率化の検討が急務であると考えられる。従って、この分野での技術の進展とその実用化のためには大学と地域企業との連携が重要であると考えます。大学での新しいユニークな技術を産業界で利用して頂き、社会に寄与できればと思います。</p> <p>【神奈川県との連携に期待すること】</p> <p>神奈川県は太陽光発電システムの導入にも力を入れており、また、電力買い取り制度の制定に伴って、この領域に新規に参入する企業が増えてきている。そこで、このような新エネルギー利用部門などでのベンチャー企業等と大学の連携する機会をより多く創出していただけることを期待する。</p>	
連絡先	〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野 1030 電話：046-291-3250(庶務課) 046-291-3152(教員室直通) E-mail：itako@ele.kanagawa-it.ac.jp	


神奈川の研究者紹介 < Intellectual Resources of Kanagawa >

氏名	高橋 勝美 (たかはし かつみ)	
現職	神奈川工科大学創造工学部教授	
主な経歴	日本体育大学大学院修士課程修了後、日本体育大学助手を経て現職	
専攻分野・研究テーマ	運動生理学、スポーツバイオメカニクス、感性工学	
主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等)	<p>【著書】 レッツ トライ スポーツ&amp;エクササイズ (分担執筆), 学術図書出版, 1. トレーニング, II. 筋力トレーニング, pp. 3-7, 1997</p> <p>【論文】 ①円筒物体の握り易さの感性評価と手関節運動範囲および指の力発揮特性 -打具競技選手と一般学生との比較-, 日本機会学会論文集 (C編), 65 (637) : 3744-3750, 1999</p> <p>②Heart rate response to oxygen uptake during graded exercise as an index of Cardiopulmonary functional reserve in patients with hemodialysis, The J. of Rehabilitation Sports, 29(1):2-7, 2010</p> <p>【委員・役員歴】 神奈川体育学会理事, 神奈川県体育協会スポーツ医科学委員会副委員長, 同スポーツ医科学サポート部会長, 同競技力向上委員会委員, 日本ボート協会スポーツ医科学委員, 神奈川県ボート協会理事, かわさき福祉製品アイデアコンテスト審査委員, 神奈川県立厚木北高校評議委員</p>	
神奈川県との関わり	<p>2004-2005年; 神奈川県立体育センター「健康・体力・競技力向上の科学的研究」研究アドバイザー</p> <p>2005-2007年; 神奈川県教育委員会教育局「子どもの体力研究委員会」研究アドバイザー</p>	
メッセージ	<p>【現在、関心をもっている領域】</p> <p>超高齢社会を迎え、高齢者の健康や自立機能の維持・増進は、神奈川県のみならず日本にとって急務の課題である。健康の維持には、運動は重要な因子の1つであり、活動的な生活習慣への改善が重要である。本学研究センターである健康福祉支援開発センターは、地域高齢者に対し、生活の中に習慣的な運動を取り入れるための運動指導支援を行ってきた。研究対象は、生活に運動を取り入れたことによる運動機能および認知機能、生活行動様式の変化等、運動の効果を明確にすることである。</p> <p>【神奈川県との連携に期待すること】</p> <p>これまでの活動から、高齢者のコミュニティは少しずつできつつあるが、健康の維持・増進は、今や高齢者の問題だけではなく、生涯を通じた課題である。大学の1研究センターの活動だけでは、生涯にわたる健康づくり支援には不足が生じる。神奈川県が、健康というキーワードで教育機関、企業、地域自治会等が協力し合える環境づくりの支援体制を大学と連携して構築する事を期待している。</p>	
連絡先	<p>〒 243-0292 神奈川県厚木市下荻野 1030</p> <p>電話: 046-291-3141 (研究室直通)</p> <p>E-mail: katsumi@rm.kanagawa-it.ac.jp</p>	

## 神奈川の研究者紹介<Intellectual Resources of Kanagawa>

氏名	中谷 弥栄子（なかに やえこ）	
現職	鎌倉女子大学家政学部教授（博士（医学））	
主な経歴	東邦大学医学部公衆衛生学教室助手、杏林大学保健学部保健学科講師、鎌倉女子大学助教授を経て2008年より現職	
専攻分野・研究テーマ	公衆栄養学、栄養コミュニケーション論、食育活動論	
主要業績 （これまで発表 した著書、論文、 行政委員の 経験等）	<p>【著書】「コンパクト公衆栄養学第2版」朝倉書店，共著(2012年) 「社会・環境と健康（サクセス管理栄養士講座）」第一出版，共著(2011年) 「管理栄養士技術ガイド」文光堂，共著(2008年)他</p> <p>【論文】中谷弥栄子、西川浩昭、手嶋登志子：学生による授業評価の試み-総合評価に影響を及ぼす因子-、栄養学雑誌、Vol. 60 No. 6 p. 277～286(2004)他</p> <p>【委員・役員歴】管理栄養士国家試験委員(2007年～)、鎌倉市食育推進会議委員(2012年～)、独立行政法人労働者健康福祉機構東京産業保健推進センター特別相談員(2002年～)、日本栄養改善学会評議員(1997年～)、日本未病システム学会評議員(2005年～)他</p>	
神奈川県との 関わり	NPO・大学等と農業協同組合との連携促進モデル事業	
メッセージ	<p>【現在、関心をもっている領域】 NPO・大学等と農業協同組合との連携促進モデル事業では、JA直営店で学生が作成した野菜に関するPOPの掲示や旬の野菜のレシピの提供、来店者に対する食育活動を行っている。事業も2年目となり評価の段階となるので、それらが来店者の購買行動にどのような影響を与えているか、行動経済学的な視点から分析を行いたいと考えている。</p> <p>【神奈川県との連携に期待すること】 食育活動は家庭、学校、地域など様々な場面で数多く展開されている。効果的な活動には実施主体間の連携は不可欠である。「食みらい 神奈川プラン」で示されているように、団体相互の連携強化や情報の調整役としての役割の一層の推進を期待する。また、食育活動の評価指標として事業実施量が用いられるが、効果を評価するための指標の検討がなされることを期待する。</p>	
連絡先	〒247-8512 鎌倉市大船 6-1-3 鎌倉女子大学家政学部管理栄養学科 電話：0467(44)2111 E-mail：nakatani@kamakura-u.ac.jp	

神奈川の研究者紹介 < Intellectual Resources of Kanagawa >

氏名	當島 茂登 (とうしま しげと)	
現職	鎌倉女子大学児童学部教授	
主な経歴	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所総括研究員を経て2008年より現職	
専攻分野・研究テーマ	特別支援教育論、特別支援教育教育課程論、発達障害児の支援法	
主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等)	<p>【分担執筆】「特別支援教育の基礎・基本」(ジヤース教育新社、2009年)  「特別支援教育にどう取り組むか」(教育開発研究所、2011年)  「特別支援学校の保護者問題」(教育開発研究所、2012年)</p> <p>【論文】「特別支援教育と発達障害のある子どもへの支援」日本児童学会『児童研究』Vol. 88、2009年  「ムーブメント教育・療法による地域支援の実際」鎌倉女子大学『学術研究所報』第10号、2010年  「障害の重い人のためのウィールチェア・アクティビティプログラム(教育心理学的側面からの意義)」全国心身障害児福祉財団、2010年</p> <p>【委員・役員歴】文部科学省特別支援学校学習指導要領解説編集協力者(総則等)(2009)  かながわ人づくりフォーラム運営推進委員(2005～2006)</p>	
神奈川県との関わり	<p>神奈川県立学校における第三者評価委員(2011～2012)  かながわ子どもスマイル(SMILE)ウェブ実行委員会委員(2012)  かながわ人づくり推進ネットワーク幹事会運営委員(2012)</p>	
メッセージ	<p>【現在、関心をもっている領域】  特別支援教育における教師の専門性の向上に関する研究  地域における障害のある子どもへの療育・相談・支援(コンサルテーション)  ドイツにおけるPsychomotorikに関する実践的研究</p> <p>【神奈川県との連携に期待すること】  これまで神奈川県教育委員会を中心に推進している「かながわ人づくり」に、特別支援教育の視点から関わってきている。今後は神奈川県立の特別支援学校等と大学が協働・連携して支援を必要としている子どもたちのQOLの向上に努めていきたい。</p>	
連絡先	<p>〒247-8512 鎌倉市大船6丁目1-3  當島茂登研究室(鎌倉女子大学児童学部児童学科)  電話: 0467-33-8605  E-mail: tushima@kamakura-u.ac.jp</p>	